

現代版ABCC(原爆障害調査委員会)
になりかねない

東北メディカル・メガバンク機構

現代医療を考える会
山口研一郎

話題提供

- ①東北メディカル・メガバンク機構 (TOMMMO)
創設の歴史的背景 : 3~5
- ②TOMMMOの具体的目的・内容 : 6~9
- ③TOMMMOの問題点・疑問点 : 10~12
—現代版ABCCにならないか？
- ④「100万人ゲノムコホート研究」について : 13~15
- ⑤参考資料とご案内 : 16~18

東北メディカル・メガバンク機構 (TOMMMO) 創設の歴史的背景(1)

- ①2011年3月11日、東北大震災発生
- ②同6月、第2回医療イノベーション(技術革新)会議
(管内閣、第1回は2010年11月)にて、
東北大学山本雅文医学部長プレゼン
「被災地域の特徴として、3世代同居家族が多く、
人口の移動が少ないのが利点」
- ③同8月、復興計画にTOMMMO構想が挿入
- ④同9月、TOMMMOに約500億円(10年間)が計上
- ⑤2012年2月1日、TOMMMO発足

TOMMO創設の歴史的背景(2)

阪神・淡路大震災(1995年1月17日)後の復興

- ①1998～99年、神戸・先端医療産業都市構想：イラク戦争(2003年2月～)を仕組んだ米大手ゼネコン、ベクテル社(ジョージ・シュルツ元国務長官がCEO)
- ②小泉政権下、2003年全国に「先端医療産業特区」(スーパー特区)
- ③ポートアイランドに、研究部門(発生・再生科学総合研究センター=CDB、次世代スーパーコンピューター「京」)、臨床部門(先端医療センター、神戸市立医療センター・中央市民病院)、神戸国際メディカルフロンティアセンター)、医薬品・医療機器部門(国際医療開発センター、製薬・医療機器企業277社)

TOMMO創設の歴史的背景(3)

ナオミ・クライン著『ショック・ドクトリンー惨事便乗型資本主義の正体を暴く』(岩波書店、2011年9月)

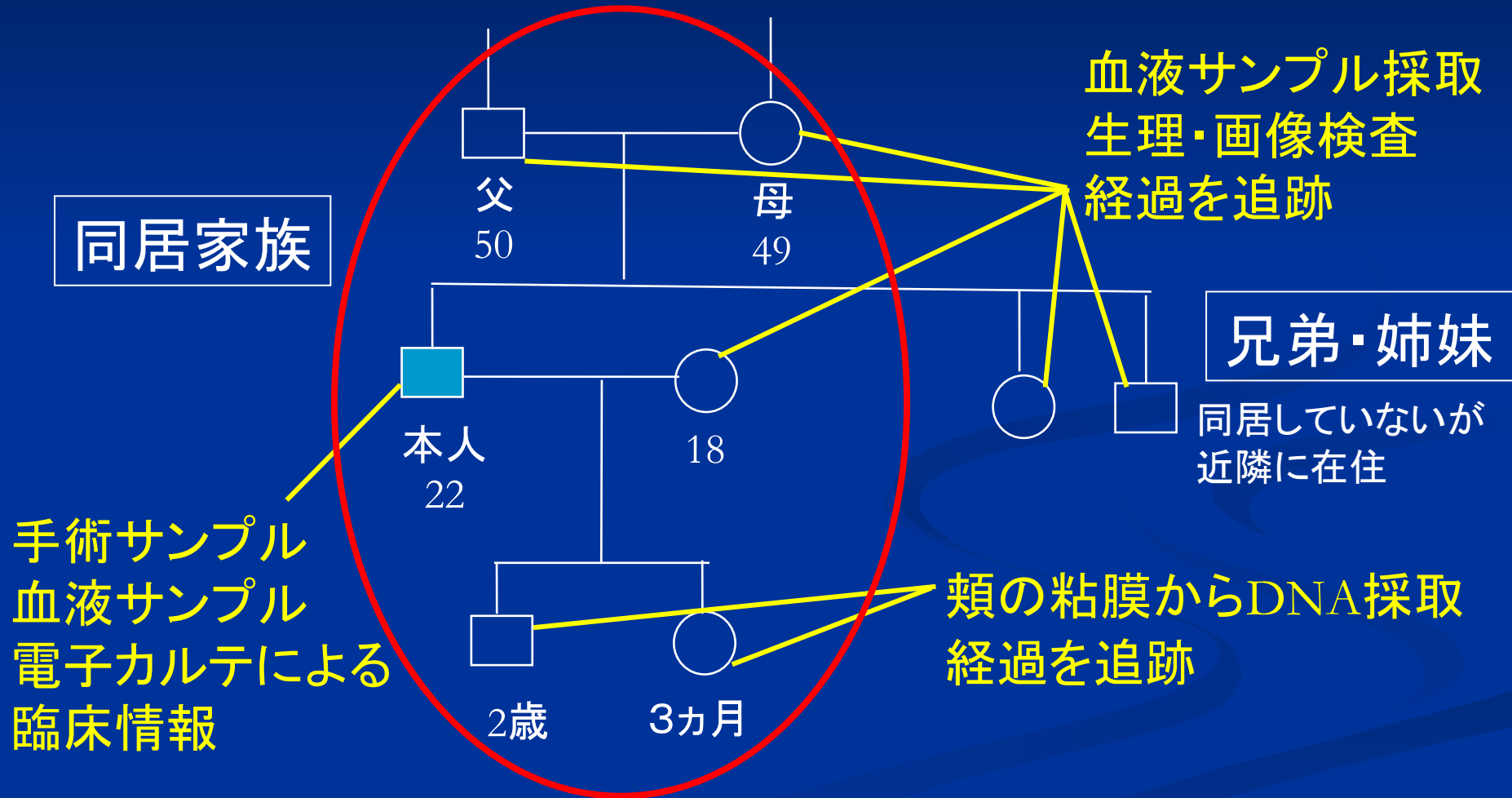
- ①1950年代、シカゴ大学教授ミルトン・フリードマンー新自由主義による市場原理主義「国民(地域住民)にとっての危機こそ、(グローバル=超国家)企業にとっての好機である」
- ②2004年12月、スマトラ沖地震と大津波後の高級リゾート化計画」
- ③2005年9月、ルイジアナ州ニューオーリンズのハリケーン・カトリーナ後の全地域経済競争ゾーン化提言(フリードマン)

東北メディカル・メガバンク機構 (TOMMO) の 具体的目的・内容 (1)

- ①宮城県 (東北大学)、岩手県 (岩手医科大学) の太平洋沿岸部被災者が対象
- ②地域住民 (ゲノム) コホート (大規模疫学調査): 8万人の20歳以上の成人
- ③三世代コホート: 子世代 (出生児)、親世代 (妊婦) 祖父母世代の7万人

TOMMOの具体的目的・内容(2)

①疾患＋垂直コホート(2011年6月、山本医学部長)



子どもの健康と環境に関する全国調査
(エコチル調査)との連携も検討する

TOMMOの具体的目的・内容(3)

⑤ バイオバンクの設立

i) 遺伝要因と環境要因との関連

→ 遺伝継承性

ii) 患者コホートバイオバンク(バイオバンクジャパン)や
地域住民を対象としたコホート研究との連携

→ オールジャパン体制の構築

iii) 2013年11月末、1000人の全ゲノム解読

→ 1500万個の遺伝子多型の判明

→ 個別化予防、医療

TOMMOの具体的目的・内容(4)

⑥被災によるPTSD、ストレス、生活習慣の乱れと健康、疾患、遺伝子変異

⑦広島、長崎被爆者コホート

i) 原爆による放射線の健康への影響

ii) 被爆者(93000人)と対象群(27000人)との比較

iii) 1950年より死亡追跡調査

iv) 近年、遺伝子解析も導入

→ 予防、治療への道

東北メディカル・メガバンク機構 (TOMMO) の 問題点・疑問点 (1)

- ①「創造的復興」の一環としてのTOMMO、特にゲノムの集積・研究は、被災者の生活の再建には無縁
- ②TOMMOの研究成果は、研究者の業績に貢献し、挙句は製薬・医療機器・IT企業に恩恵をもたらす
- ③「社会的弱者」としての被災者を対象とした研究は、「ヒトを対象とする医学研究の倫理的原則を定めた“ヘルシンキ宣言”(1964年6月、世界医師会)に抵触

TOMMOの問題点・疑問点(2)

“ヘルシンキ宣言”の一部

5. ヒトを対象とする医学研究においては、被験者の福利に対する配慮が科学的小よび社会的利益よりも優先されなければならない。

8. 医学研究は、すべての人間に対する尊敬を深め、その健康と権利を擁護する倫理基準に従わなければならない。弱い立場にあり、特別な保護を必要とする研究対象集団もある。経済的小よび医学的に不利な立場の人々が有する特別なニーズを認識する必要がある。また、自ら同意することができないかまたは拒否することができない人々、強制下で同意を求められるおそれのある人々、研究からは個人的利益が得られない人々およびその研究が自分の治療とむすびついている人々に対しても、特別な注意が必要である。

19. 医学研究は、研究が行われる対象集団が、その研究の結果から利益を得られる相当な可能性がある場合のみ正当とされる。

TOMMOの問題点・疑問点(3)

④当面、対象者は宮城県、岩手県内に住む被災者とされている。

— 将来、宮城県内に住む被曝者、さらには福島県内の被曝者に広がることはないか？

— 被曝による臓器・組織・血液などの変化、細胞やDNA・遺伝子の変化、世代の変遷の研究に発展しないか？

— 現代版ABCCの再来にならないか？

「100万人ゲノムコホート研究」について(1)

①目的:

「危機的な少子高齢化時代を迎える我が国にとって、病気の超早期発見と発症前の治療的介入による予防法の確立は、活力のある健康長寿社会を構築するために不可欠である。……。その成果は、疾患の原因解明と予防・治療法の開発を通じた、世界に一步先じた高齢化社会の健康長寿モデルの構築につながる。加えて、人間の持つ健常形質の多様性の解明や、生物が共有する基本的生命現象を発見する大きな可能性を秘めた究極の“ヒト生物学”として生命科学分野に多大な貢献が期待される。また研究に必要な様々な先端解析技術の開発と実用化・汎用化は、我が国の科学技術全般や産業界に大きな技術革新をもたらす。超高齢者社会の我が国にとって、予防に関する情報を用いた新たな健康産業の創出や、保険医療情報の電子化による新時代の保健医療システムの構築も極めて重要である」

(日本学術会議、2013年7月)

「100万人ゲノムコホート研究」について(2)

- ②予算:1000億円(300億円は民間企業より調達、2030年に完了予定)
- ③「マイナンバー制」の導入と連動(固有IDの携帯)
「マイナンバー制度が持つ同一人同定の基盤技術を活用しつつも、マイナンバーとは別体系の、医療やコホート研究で使用可能な個人識別番号である国民保健番号(仮称)を国は新たに創設すべきである」
(日本学会会議、2012年8月)
- ④方法:10万人規模のコホートを全国10カ所に
 - i)住民コホート:地域住民を対象に3~5年毎に健診
 - ii)職域コホート:地元企業の職員・社員を対象

「100万人ゲノムコホート研究」について(3)

⑤産官学連携

- i) 新しい創薬、疾病予防の健康産業
- ii) オーダーメイド医薬品
- iii) バイオマーカー(疾患の発症・増強に関与する因子)
発見による診断薬の開発
- iv) 精密機械・医療素材産業への情報提供
- v) 食品、健康食品などの食品関連産業
- vi) IT企業

⑥先行実施

- i) ながはまコホート
- ii) 東北メディカル・メガバンク
- iii) エコチル調査(環境省の子どもの健康と環境に関する
全国調査)

参考文献

- ①日野秀逸「“東北メディカル・メガバンク構想—政・財・官・学『複合体』による『復興焼け太り』あるいは『復興喰いもの』プロジェクト」(『宮城保険医新聞』1448号、2011年12月)
- ②古川美穂「東北ショック・ドクトリン、第1回～第3回」(『世界』岩波書店、2013年12月、2014年1月、2月)
- ③水戸部秀利「東北メディカル・メガバンク事業の非倫理性」(『日本の科学者』第49巻第4号、2014年4月)
- ④同「東北メディカル・メガバンク事業を批判する」(『月刊保団連』1169号、2014年9月)
- ⑤山口研一郎「科学技術における『国策』と『犠牲』の連鎖の構図」(『国策と犠牲—原爆・原発そして現代医療のゆくえ』社会評論社、2014年10月)
- ⑥『東北メディカル・メガバンク機構』(2014年3月発行)

山口研一郎編著

国策と犠牲—原爆・原発 そして現代医療のゆくえ

まえがき—戦後日本における「国策」をめぐって.....山口研一郎

序章 いま深いのちをみつめる.....高 史明

I 福島原発事故と内部被曝

第1章 「低線量」放射線内部被曝と健康障害.....松井英介

第2章 若狭湾における反原発の闘い.....中 崙哲演

II 現代科学技術と先端医療

第3章 医療政策としての脳死・尊厳死.....小松美彦

第4章 人体部品資源化・商品化のいま.....天笠啓祐

第5章 子どもと臓器移植・原発事故・遺伝子診断.....亀口公一

第6章 科学技術における「国策」と「犠牲」の連鎖の構図.....山口研一郎

III 被爆地・長崎の戦後

第7章 長崎の医師・永井隆、秋月辰一郎のことなど
-土山秀夫先生に聞く.....山口研一郎

あとがき—苦からの解放をめざす人びとへ.....神戸 修

発行所：社会評論社

東京都文京区本郷2-3-10 TEL 03(3814)3861 FAX 03(3818)2808

《第26回現代医療を考える会開催のお知らせ》

テーマ【国策と ――原 ・ 原発 ――そして現代医 の ゆくえ】

講師 ①小林圭二さん(京都大学原子炉実験研究所元講師)

世界で唯一の被爆国日本が、戦後何故原発を推進するようになったのか。原発の危険性、人類に対する放射線の問題性について。

②櫛(めで)島次郎さん(東京財団研究員)

臓器移植や生殖医療、遺伝子診断、再生医療など、生命科学の様々な分野に関する社会的、人類史的問題点について。現在国が進めている「100万人ゲノムコホート研究」について。

③布施幸彦さん(ふくしま共同診療所医師)

福島県の原発周辺地域における人々の放射線内部被曝(特に甲状腺がん発生)の実態について。

日時 2015年1月31日(土)13:30～17:00

場所 高槻現代劇場・市民会館305号室

高槻市野見町2-33 TEL:072-671-1061(JR高槻駅より徒歩15分、阪急高槻駅より徒歩10分)

資料代 1000円

主催:現代医療を考える会

協賛:医の倫理―過去・現在・未来―企画実行委員会

連絡先 やまぐちクリニック(平日9:00～18:00) TEL:072-690-5265 FAX:072-690-5266